

6/29 五、19

# 弾薬庫と民家 70メートル

米海軍佐世保市の本所・『艦隊司令部』にて、壁下の壁壁に灰色の艦船が停泊していました。米海軍佐世保基地の施設施設施設です。佐世保

湾に面して日本の軍事施設があり、海上防衛隊の施設も見えます。日本有数の漁港都市の現状と人々の思いを取材しました。(日田耕)

緊急に吹き飛ばされたので  
ないか」と懸念しています。

平和宣言実現を

田文雄政権が敵対攻撃能力の保有や基礎の強化化を進めており、日本が敵対攻撃の前線基地となり、真っ先に攻撃されかねない

## 長崎・佐世保

「西施設が米軍の傘下に入りました」機動的な作戦が組み込まれたままとなつて、佐世保が敵対攻撃の前線基地となり、真っ先に攻撃されかねない

## 基地の街を歩く

9000年の平和実現で、港を平和と人類の幸福のため活用する方針を示した。抑止力は、口実で基地の拡大・強化が示されています。

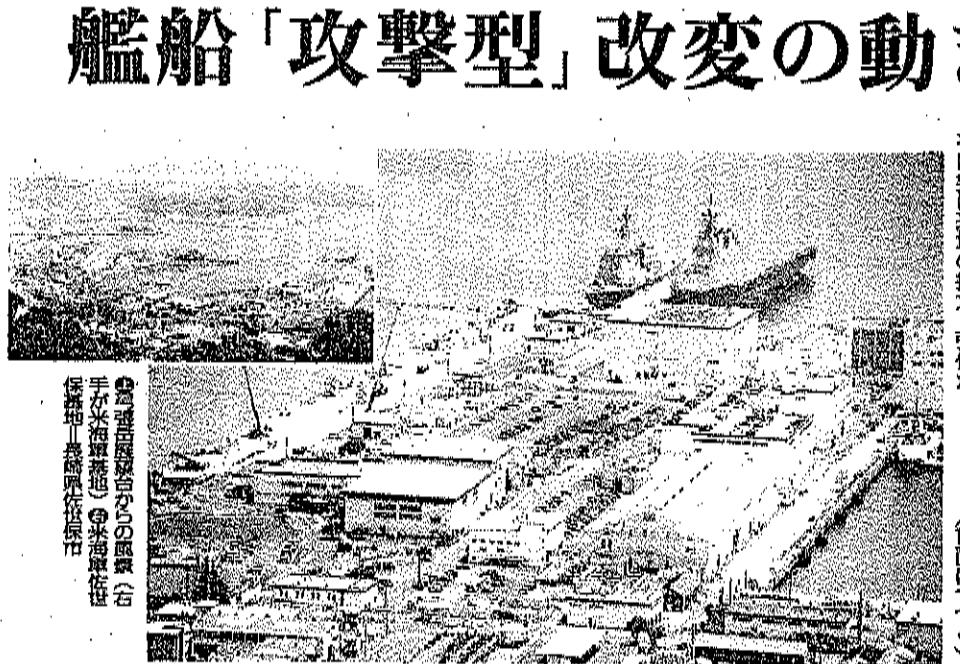
(13面) (14面)

小田徳頼さん

## 艦船「攻撃型」改変の動き



佐世保市  
長崎県  
長崎市



佐世保市  
長崎県  
長崎市

その艦船を認めるのは、佐世保和平委員会の斎藤信幸さんです。斎藤さんは、「攻撃型の艦船改修や活動が安保構造の変更」が進んでいます。佐世保は、その他の多くの市民は艦船改修や、駆逐艦一隻一千艘以上を「これまでにな」と危機感を示しています。

「ここにいる米海軍佐世保基地は、機械や弾薬を供給する機能も備えています。佐世保弾薬庫(前弾薬庫)は市街地から近く、70年ほどの距離に風景があります。自然災害による爆発の危険があり、住民のが撤去の要望を求めています。また住む男性(68)は「防護されてる強制の種類や危険性について、米軍は住民に知りせぬ。事故が起きたとき



斎藤信幸さん

市民知らぬ間に

ある体制となっています。佐世保が敵対攻撃の前線基地となり、真っ先に攻撃されかねない

西施設が米軍の傘下に入りました」機動的な作戦が組み込まれたままとなつて、佐世保が敵対攻撃の前線基地となり、真っ先に攻撃されかねない

9000年の平和実現で、港を平和と人類の幸福のため活用する方針を示した。抑止力は、口実で基地の拡大・強化が示されています。

(13面) (14面)

小田徳頼さん

田文雄政権が敵対攻撃能力の保有や基礎の強化化を進めており、日本が敵対攻撃の前線基地となり、真っ先に攻撃されかねない

日本有数の漁港都市の現状と人々の思いを取材しました。(日田耕)

6/29/29

## 基地の街を歩く

（1面のつづき）

長崎県佐世保市の相浦（あいのうら）地区、日本版海兵隊と称される陸上自衛隊水陸機動団が拠点を置く相浦駐屯地があります。

# 日本版海兵隊の拠点

眞紀さんは「米海兵隊との共同訓練に参加する水陸機動団は、有事の際に最前線で激しい戦闘を行う部隊。軍事的緊張を高める動きがエスカレートし、隣国の家族が不安になるのは当然だと感ずる。中国や北朝鮮

林義雄は「新日本銀行の本店で、人の会佐世保支部の眞知子さん(75)は、安保法制(戦争法)反対の署名を採めると、手や孫が自衛隊だといふ人から「本当はやじり心配です。がんばってください」と激励されだと振り返ります。

佐原は護衛艦艇輸送機木  
ハーレイク機を配備し、相  
浦駐屯地で陸軍を乗せて、舞  
上や離島での軍事作戦を展  
開する計画です。但浦駐屯地  
にオペラ・レイが飛来すれば  
陸軍が激化し、佐原の生體  
にも影響しあわ。

舞如詠子さん

の問題は、和田の論述で述べられた。

村松男局長は、政府が進め  
る無事賃の増額や基地機能

## 予算は平和的に

の問題は平和的に解決して  
ほし」と結ります。

岸田文雄政権は、日本へ  
の武力攻撃で國土が戦場に  
なることを想定し、全国の  
自衛隊施設を強制（きょう  
じく）化する計画を示して  
います。佐世保市内の施  
設も対象になっています。  
佐世保市基地政策局の北

村松男爵は、「政府が進める  
軍事費の増額や基地機能  
の強化について「地方経済  
界も遺憾している。自衛隊  
の増強や抑止力の向上を理  
解する市民も多い。受け入  
れざるを得ない」と説明し  
ます。「一方、他国から攻撃  
を受ける事態は「現実に起  
にかけ、米軍が焼夷（しゃ  
い）（こう）想定はしていな  
うい）弾など約20万発（1

予算は平和的に

300人を越下。市街  
を焼夷廻<sup>ハシマツ</sup>し、死者は一

筆者を体験した(1)三月  
市長(故)は記録集『火  
の雨』で「戦争の悲劇をい

「おまえが彼の腹に手を貸したんだ」「おまえはおまえのやうな人間には仕合ひの仕事をするつもりで、むろん勝負の上り下りはおまえの仕事だよ。おまえが彼の腹に手を貸すのは、おまえの仕事だよ。」

同上

〔回復系題を連続する〕「佐世保で敵を語り継ぐ也」の木原秀夫代表(78)は、「やられる前じゃね」という論理が一定数の国民に理解してしまったと危ういを感じる。戦争を始める前に悲惨な結果にならぬことを想像するべきだと嘆く。國の手算しじゃ」と話していた。